

この通信は第3号(令和元年7月1日発行)を加筆修正したものです

日本人学校とは

日本人学校は、国外に住む日本人児童・生徒を対象に日本国内の小・中学校と同等の教育を行う学校です。世界約50カ国に約90校あります。日本と同等の教育を行うので、日本人の先生が日本と同じ教科を、日本の教科書で教えています。児童生徒は、北海道から沖縄まで全国各地から来ていますし、先生も全国各地から来ています。そして、日本人学校で学ぶ児童生徒の多くは、親の仕事のため海外で生活している日本の子どもたちです。また、日本の教育システムに興味を持っている現地の児童生徒も学ぶことができます。中には、国籍は日本ですが、保護者が世界中をまわる仕事で、世界の日本人学校や現地の学校に通って、日本の学校に通ったことがない児童生徒もいます。先日も中学部の生徒で、コロナの影響のため日本で一時帰国をしたとき、産まれてはじめて日本の学校に通い、給食が美味しくて感動したと友達に話をしていた生徒がいました。

全国各地、世界各国から集まった児童生徒、先生方で協力しながら学校生活を送っているのが日本人学校です。

上海日本人学校浦東校について

小学部（小学校）の児童が約350名、中学部（中学校）の生徒が約410名、合計約760名の児童生徒がいます。新型コロナウイルスの影響でかなり減ってしまいました。教員が70名、英語や中国語の講師の先生、事務員さんや門衛（警備）の職員を合わせると、教職員は約130名です。とても大きな学校です。基本的に日本の学校のシステムで日本の小中学校と同じ勉強をしています。

上海市全域から集まっている

上海市はとても広いです。人が多く住んでいる地域だけでも東京都の2倍くらいの面積があります。そのような広範囲から児童生徒が通っています。実は上海には2つの日本人学校があります。1つは私が勤務している浦東校（プードン校）、もう一つが虹橋校（ホンチャオ校）です。虹橋校は小学部だけで、浦東校は小学部と中学部があります。中学部は浦東校にしかないのも、中学部の生徒（中学生）は上海市全域から通っています。スクールバスで片道2時間近く（往復3時間以上）かけて毎日学校へ通っている生徒もいます。



上海日本人学校浦東校 全景